

キャンパス

手稲漢仁会病院の病理診断科に勤務する傍ら、北大腫瘍病理学教室の博士課程に所属。



膵がんの早期発見と予後改善を目指して、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）のがん化メカニズムについて研

北大腫瘍病理学教室

究し、次世代シーケンサーでのゲノム解析を行ってきた。

その成果の一部である遺伝子プロファイルを取りまとめて発表し、第25回欧州消化器病週間の最優秀ポスター賞を受賞した。

研究は、手稲漢仁会病院をはじめ、北大腫瘍病理学教室の田中伸哉教授、札幌東徳洲会病院臨床試験センター

大森 優子 医師

医学研究所の小野裕介医師らとの共同プロジェクトとして取り組み、自身は主に組織学的解析と全体の情報解析を担当した。

ゲノム解析に基づく新たな知見と、日々実地で行う検体の診断がさまざまなか所で結びついて、双方向的に自分の理解が深まる時に、「病院と大学の両輪でやってきた意義を感じる」と語る。

北大2006年卒、札幌市出身。

IPMNのがん化メカニズムを研究